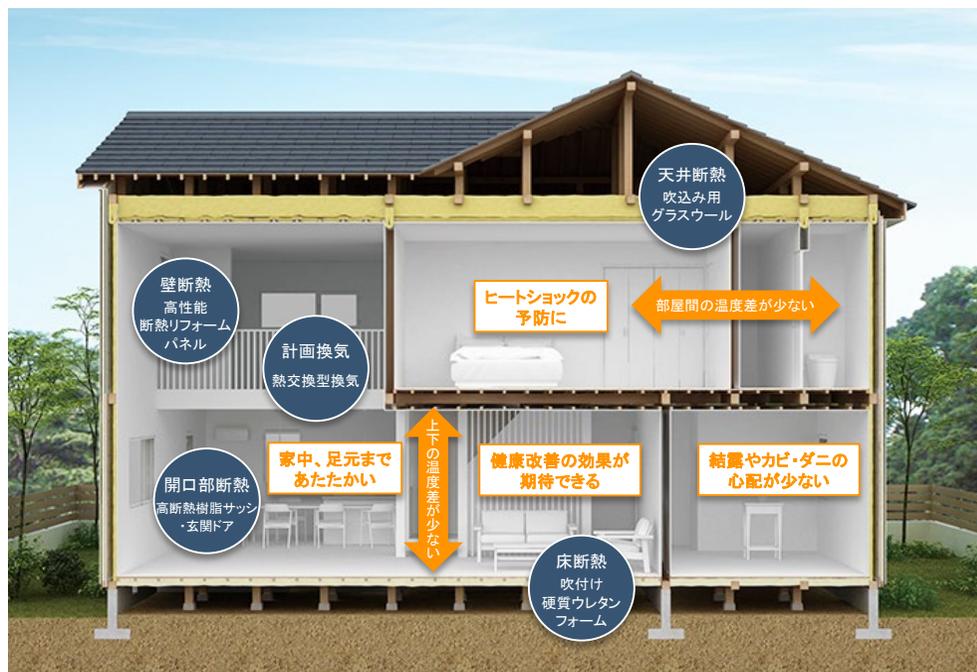


「まるごと断熱」だからできる、
家中どこでも暖かな暮らし。



日本の家のおよそ90%が現行省エネ基準に満たない、断熱性能の足りない住宅です。
まるごと断熱リフォームは、今ある住まいを、一棟まるごと断熱改修することによって高性能住宅化できます。寒い季節、家のどこにいても、足元まで暖かい「快適」「健康」「省エネ」を実感できる暮らしをご提案いたします。

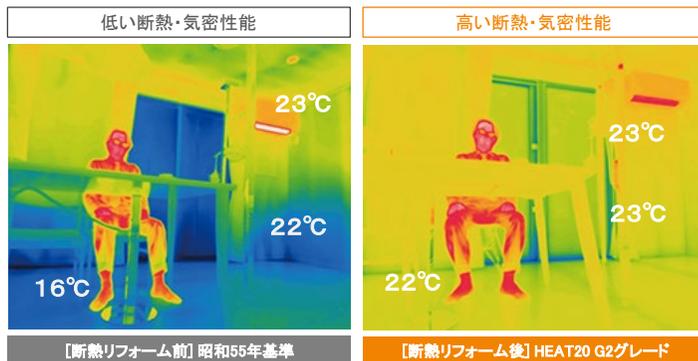


まるごと断熱リフォームが、日本の家の「寒い・暑い」を解決します。

足元まで空間全体が暖かく、冷え性の方にもやさしく。

断熱リフォームによって断熱性を高めることで、部屋の上下の温度差をわずかに。暖房は効いているのに「足元が寒い・冷える」などの暮らしの困りごとが解消されます。

外気温0℃ 暖房設定温度20℃
※ 掲載データは、実験施設にて測定した値であり、保証値ではありません。住宅の仕様、生活スタイル、気象条件等により異なる場合があります。



部屋間の温度差が少なく、ヒートショックのリスクを低減。

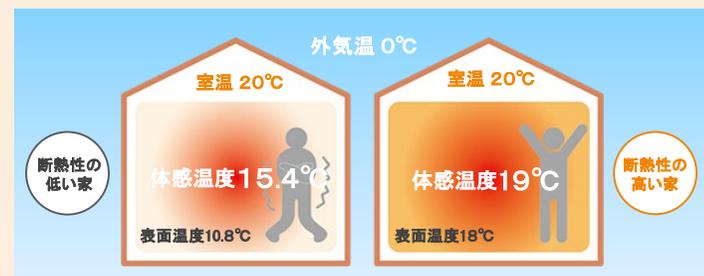
家全体の断熱性を高めると、部屋間の温度差も少なくなり、冬場のヒートショックのリスクを低減。入浴時の脱衣室やトイレで「ぶるっと震える」といった寒さも解消されます。

外気温0℃ 暖房設定温度20℃
※ 掲載データは、実験施設にて測定した値であり、保証値ではありません。住宅の仕様、生活スタイル、気象条件等により異なる場合があります。



断熱性能を高めると、体感温度が暖かく。

人のカラダは空気温度以外に、床・壁・天井面からの冷放射も感じとります。部屋の温度計が20℃でも、断熱性能の高い家では体感温度が19℃、断熱性能の低い家では15.4℃と大きな体感温度の差が出てきます。



出典：(財)建築環境・省エネルギー機構
住宅の省エネルギー基準の解説

リフォームで、最高水準の断熱性能を実現します。

まるごと断熱リフォームの基本コンセプトは、健康・快適・安心・安全な暮らしのために、トップレベルの断熱性能を目指した住宅をリフォームで実現すること。狙い通りの居住性能を実現する高品質な住宅リフォームであること。これらのことを、すべての「まるごと断熱リフォーム」登録店様が、同等の断熱性能が担保できる工法としてシステム化しています。



壁断熱

トップレベルの断熱性能
断熱リフォームパネル

断熱材には断熱材区分トップレベルを誇る、硬質ウレタンフォームを使用。外張り断熱によって、高性能断熱リフォームパネルで躯体をすっぽり覆います。



※断熱材区分は、住宅金融支援機構による「断熱材の厚さの早見表」におけるF区分となります。

開口部断熱

高断熱の内窓と玄関ドアで
断熱性能をアップ

現在の窓サッシはそのまま、新たに内窓をつけて断熱性能をアップ。また、既存枠を利用した高断熱な玄関ドアの設置で、断熱性能を高めます。



天井断熱

吹込み用グラスウールで
小屋裏に断熱材を厚く充填

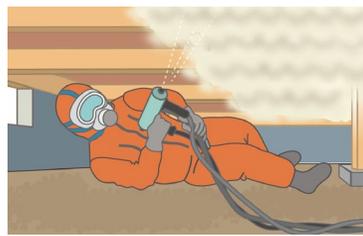
リフォームでの天井断熱に最適な吹込み用グラスウールを採用。軽量の断熱材のため、天井への負担が少なく、小屋裏空間にたっぷり厚く充填できます。



床断熱

床付け硬質ウレタンフォームで
床下側からしっかり暖房

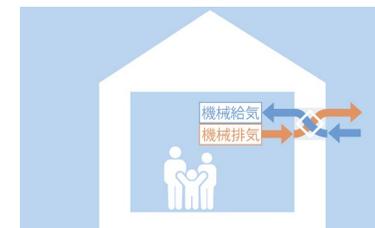
床下側から断熱材を施工するため、落ちずに密着する吹付けタイプの硬質ウレタンフォームを採用。床組の隙間を埋めることができます。



換気

高性能住宅に欠かせない
計画換気システム

高性能化された住宅には計画換気が不可欠です。リフォームでの施工に適しているダクトレスタイプの熱交換換気システムを推奨しています。



※第三种換気を用いる場合でも、計画換気は必要となります。

天井断熱

床断熱

IBEC優良断熱施工システムの
認定工法です。

施工の良否に品質が大きく影響される「現場施工型の断熱工法」について、優良な品質が確保される工法であることをIBECが評価、認定しています。